

はづ

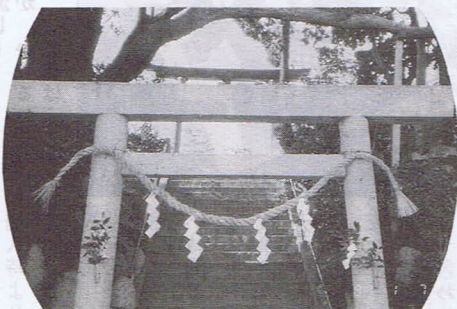
No. 14

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会
昭和62年3月25日



羽津青年団がしめ縄づくり

あなたは、知っていましたか……………?



▲ 力を合わせたしめ縄かざり

我々、羽津青年団は、20年近く志氏神社境内のしめ縄を先輩たちの教えを受け継いで作り続けてきました。

数年前までは、6支団に分けて1週間ほどで作っていたのですが、年々団員が減少するにつれ、日数もかかるようになり、去年は12月30日にやっと作り終えた次第です。その結果、出来ばえは、とてもほめられたものではありませんが、少人数で、忙しい中、ガンバッテ作ってきたのだと自負しています。もし、皆さんが神社へ行く機会がありましたら、一度見てやって下さい。

また、青年団では、毎年大晦日の志氏神社の宮守り、祭りののほりたて、盆踊りなど皆さんの身近で活躍しています。もし、そういう姿を見かけた時は、ガンバレヨ！と言声をかけて下さい。

なお、最後になりましたが、このような青年団活動を我々と共にやっていく新入団員を毎年3月に募集していますので、18才になられた皆さん、先輩たちは、両手を広げて君たちが来るのを待っています。
(青年団長 市川 正人)

ふるまおう みんなもってる 明るい笑顔

明るく 住みよい

町づく 羽津

りは私たちの手で!! の現状と未来は……………

前号で取り上げた「心のふれあう地域社会づくり」を引き続き今回も取り上げてみました。特に今回は、明るく住みよい羽津の町をつくらせていくために、皆さんが現在、取り組まれている活動の一部を紹介していただき、また羽津の未来像についてお聞きしました。

夢ある熟年に 向けて

白須賀町 服部 康彦

最近耳にした、とてもさわやかなニュースがあるので、ご紹介させて頂きます。孫の手も離れ、自分の時間が充分にとれる婦人達のグループで、結成して一年余りになるのですが、毎週木曜日に、町の公会所を利用して、カラオケの練習に励んでいます。上手な人の歌を聞いたり世間話に花を咲かせ、時には社交ダンスもすると言うモダンな楽しい一時を過ごしている様です。カラオケなんて思っていた人も、だんだんマイクを持つ様になり、今では、人前で堂々と歌える程になったそうです。

自分の一生は、自分で考え楽しく過ごす事が大切で、頭やからだを使って、いつまでも元気でいられる様と言うのが狙いだそうで、グループの中には八十才の方も毎回参加して、充分に楽しんで居られます。それに、週一回四日市

の市営プールまで自転車をこいで、泳ぎに行くそうです。何と五、六十才代の方達ばかりで、始めは恥かしいからと水着になるのにも抵抗を感じ、又水に浮く事も出来なかった人達が、今ではのびのびとプールの中で楽しんで、又自転車で気持ちよく帰って来るそうです。私はその話を聞き、なかなか出来ない事だと感動し、又その婦人達を引っ張って行く方もとても素敵だと思います。

皆さん、充分楽しんで後は畑仕事や家事に精を出し、充実した時間の使い方をしているところも感心しています。人間はだれしも、自分の力で実行しやり遂げる事が大切、そして人間に生まれた喜びを感謝し、人生悔なき一生を送れる様、私も余暇を見つけて、ぜひそんな生き方がしてみたいと思います。

どうぞこれからも、寒さに負けないで、頑張ってください。



私の町の 子供会行事

別名一丁目 深谷 三郎

昨年、初めての大会を、引き受けてしまいました。何、一つ分かない事ばかりで、不安でしたが、一生懸命やれば、何とかなるわと思いき、やってみる事にしました。

六月、一丁目子供会のレクレーションで、霞緑地公園へ親子の親睦を兼ねて、徒歩で行きました。なわとびや、小運動会などをやり、なわとびでは、一位三位までの賞状が有り、皆ひっしです。帰りは、ちよつとバテ気味でしたが、楽しかったです。

七月、ソーメン流し、聞くだけで涼しくなってきました。でも、この行事をするまでが大変、まず竹を半分に切つて、節を取る、この節をきちんと取つておかないと、ソーメンが引つ掛かって流れないからである。竹の下の台を、作つていざらないように、ゴムで絡める。さて本番の日、朝から児童公園でテントを張つて、役員さんにソーメンを茹でて来てもらい、準備OK、少しづつ流していたので、下まで流れて行かない。八〇名位の参加である。三グループに分けているのだが……………



「ソーメン流し」
なかなかいけるねえ
この味は……………

うになった。すごい食欲だ、ソーメンがたりないほどだ、一箱も茹でているのに、今度は親の番、子供達に流させて見る、どの子も嬉しそうに顔をしている。親もお腹がすいているので、一生懸命食べている。冷たくてすごくおいしい「あれ」もう流れて来ない、残念そうだ、大成功だった。皆さんも一度やってみたらどうですか？子供達がすごく喜びますよ。

空缶拾いに 参加して

白須賀町 清水 恭子

昨年、十一月三十一日(日)に朝八時より空缶拾いに参加しました。それぞれに白い袋を持って、ビンを集める人、缶を集める人と、皆で町内を一周しました。三十分位の短い時間で、日曜日の朝という貴重な時間をさいての成果は、いかに思いきや、大きな大きなものでした。集まった袋の山を見て驚きました。国道一号线沿いの空缶を集めている時、ある方がこう言われました。「ドライバーの人たちは、こうして私たちが集めているのを見て、どう思うかしらんね？」と、私は、直ぐこう思いました。窓から捨てる空缶が、こんなに迷惑をかけるのだから、捨てるのは止めようと思うだろうと……………すると、ある方がこう言われました。「私たちが、こうやって集めてくれるのだから、案外安易に捨てるんじゃないかと。」あ……………逆の考えもあるのかと、正直ハッ……………と思いました。無造作に捨てられる空缶、空瓶、タバコの吸殻、一人ひとりの小さな心遣いで、空缶一掃の日、などという特別な日をつくらなくても済むものをと、自分自身にも再度言い聞かせました。



「羽津の未来に 向けて」

羽津中一年 前田みつ子

羽津は私が生まれ育った町です。私が生まれる何十年という昔、この羽津という所は田や畑ばかりだったそうです。今の私たちの住んでいる羽津から、昔の羽津というのはあまり想像できません。でも、昔は羽津村だったと聞くと、何となく頭に思いかけることができます。きっと、自然でいっぱいだったのだと思います。

私が六年間通っていた羽津小学校は、百年以上の古い歴史がある伝統的な学校です。広い運動場には沢山の松や桜

の木があります。私たちはみな、その満開の花の木々の下を通過して入学しました。そして中学校。創立八年でまだまだ新しい学校です。四階建ての高い校舎からは、オーストラリア館などの沢山の建物がみられます。霞ヶ浦にあるオーストラリア館やその付近には、緑の木々や市営プールなど私たちに欠かせないものがあります。緑の芝生の上からは、広い港が見られます。海ではよくヨットを楽しむ人たちの姿もみられます。

このような素晴らしい町、羽津を私たちの手で一段とよい町にしたいです。そこで町の開発を進め、また、自然をどこにでもとり入れていきたいのです。そのために私たちは素晴らしい町づくりにできるだけの努力をしたいと思えます。これからの羽津をもっとよくするために私たちの意見を少しでも尊重してほしいです。そして未来の羽津に生きる人として、私たちはいつでも、明るい町づくりを心がけていきたいです。

「過去と未来 の羽津」

羽津中一年 登 久美子

私の小さい時は家の周りは畑や田んぼや空地などで、家が少ししか建っていませんでした。しかし今では家もたくさん建ち並び、反対に畑や田んぼや空地などが、少なくなつてきていると思います。それは人口がたくさん増えてきたんだと思います。

私が小学一年生の時は羽津小学校しかありませんでした。が小学三年生になった時は羽津小学校と羽津北小学校に分かれてしまいました。それもやっぱり生徒数が増えたからなんだらうと思います。私の小さい時は垂坂山に遠



▲羽津会館
やがては市民センター
と共に地域社会づくり
の拠点になれば……………

足などつれていってもらいましたが、今では山の一部がけずられ住宅がたくさん建てられました。緑も私達の回りから少なくなつていきます。だから少しでも緑を残して公園や広場などを造つてほしいと思います。家から見える霞ヶ浦などの方はコンビナートが建ち、この羽津地区が発展していく様子が見られます。羽津地区は、私の小さい時からあり、羽津地区運動会や



☆明るく住みよい町づくりに関する標語決定!

特選作品

入選作品

表紙に掲載

羽津中一年 森 三夏

- 家庭とは 家族みんなで つくるもの
- みんな なかよし 思いやり
- 明るい家庭は 明るい地区の第一歩
- 弱いもの みんなで守って 明るい社会
- 守ります 明るい笑顔と緑の自然
- いじめっ子 君の心は さみしいぞ

- | | |
|----|--------|
| 中三 | 東山 恭子 |
| 中三 | 酒井 陽子 |
| 中二 | 広瀬 仁美 |
| 中二 | 春崎 和美 |
| 中一 | 広瀬 宏美 |
| 中一 | 広瀬 奈緒美 |



▶お年寄りから
子どもたちへ
—— わら縄づくり ——



昭和61年度 地区総合大運動会



ア ル バ ム

去る十月二十六日(日)に昭和六十一年度、羽津地区総合大運動会が羽津地区社会福祉協議会主催のもと、羽津小学校グラウンドで盛大に行なわれました。

過去、何回となく運動会の開催日には不思議と天気がよく、当日も例年のように秋晴れて、大勢の人たちが秋の一日を思いきり楽しんでおられました。

そこで一部内容を紹介しますと、今回は運動会のマンネリ化を打破するため、二・三の種目を変更し、もっと多くの人に目を向けさせる意味で「町別対抗綱引き競技」が初めて企画されました。これには、最近特に健康づくりが叫ばれている今日、「綱」さえあれば誰にでも気軽にできるスポーツとしてあちこちで盛んに行なわれているということで、羽津地区独自のルールにより、十人一組(小学生↓二人・十代↓二人・一般女子↓二人・一般↓二人)でチームをつくり、競技が行なわれました。その結果、二十一町が参加し、緑丘チームが接戦の末、優勝しました。

「玉入れ」なる競技が行なわれ、大人も子供も意欲的に取り組んでいました。特に「樽ころがし」では、昔とったきねづかであつた子供より大人の方がうまく、逆に「聖火リレー」では、子供たち自身のバランスのよさで、大人たちを圧倒する場面が、しばしば見受けられました。

そして昼食時には、青少年協会の青少年非行防止キャンペーンとして鼓笛隊演奏やバトン演技が披露され、大運動会に花が添えられました。その他、いろいろな種目がありました。以下写真にて紹介させていただきます。



▲ 裏方さんごろうさん!!



「玉入れ」
それ、もう一つ。



▼ 「障害物競走」
やっと、通りぬけたわ!



▲ あーん、早く食べさせて!



▲ 「アベック競走」
そーれ、右・左・右・左



▼ こんなに参加賞もらえるの?



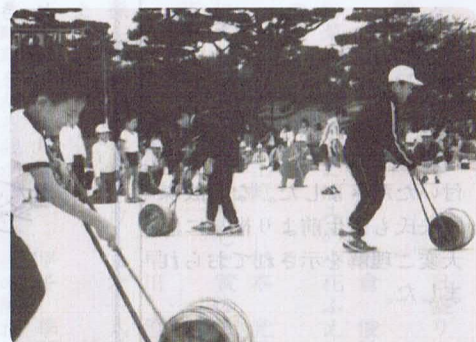
▲ 「老人会宝さがし」
私が一番よ!



▼ 「町別対抗綱引き」
そーれ、そーれ!



▲ 「聖火リレー」
おっと、あぶない
落ちて!



▼ 「樽ころがし」
なかなか、うまく
いかないなあ?



▼ 「むかで競争」
足並みそろえて
1・2・1・2……



—— 青少年非行防止キャンペーン ——



▼ 「借り物競争」
早く、お血をかして……



▲ 「小学生リレー」
さあ、早く早く



▲ 「団体リレー」
さあ、最後だノヨイ ドン!

「インディアカ講習会」

羽津地区体育振興協議会

会長 相松 正則

最近、健康づくりいろいろなスポーツが行なわれていますが、昨年、だれにでも簡単にできるレクリエーションスポーツとして「インディアカ」の講習会を実施しました。平たいゴム製のボールに三本の大きな羽根をつけたものを素手で打ち合うこの競技は、すぐに参加者になじみ、第一回の大会を開くまでになりました。これを機会に地区に幅広く広がっていきなすと思っておりますので、皆さんも一度挑戦してみてくださいいかがですか。

- 練習日 毎週木曜日
- 時間 午後七時～九時
- 場所 羽津中・体育館



意外と簡単ねえ!!

「母の日のカーネーションづくり」

羽津地区母子寡婦福祉会

会長 山田 ちよ

私ども母子寡婦福祉会は、毎年、年中行事の一つとして「母の日のカーネーションづくり」をしています。これは全国的なもので早や三十六年経ちました。

その材料は、花びら五枚・一枚・お母さんありがとうの紙一枚・安全ピン一コでまとめ、一つの赤いカーネーションを作り上げるのです。初めは、花びらがニカワで固めてあるためか、いやな臭いがしてあまりませんが、だんだんと作っていくうちに臭気もぬけていきます。そして一つづつ出来たカーネーションを百・千と箱に並べますとその美しいこと、花は、まるで生きているかのようにです。その時、「今年も無事、花は出来ました。」「ありがとう」と感謝の気持ちに包まれます。しかし、花の使命は、これからです。地区内の保育園・幼稚園・小・中学校の皆様へ一本、二十円で買っていただき、母の日に「お母さん、ありがとう」と言って、お母さんの胸につけて、母と子の楽しいひとときを過ごしてもらい、お母さんへの感謝の気持ちを伝えるようにとお頼みしております。



▲でき上がったカーネーション

ます。幸い学校側も協力的でたくさん買っていただき、集まった大切なお金は、福祉活動に使わせてもらっています。以上のように、こんな思いで作った一つひとつの花です。今後とも、地区の皆様のお力をお借りし、協力をお願いします。



ご芳志 ありがとうございます

別名3丁目 駒野とまよ様
お手玉 170個
昨年7月、暇を見つけて作られたお手玉をご寄贈いただきました。

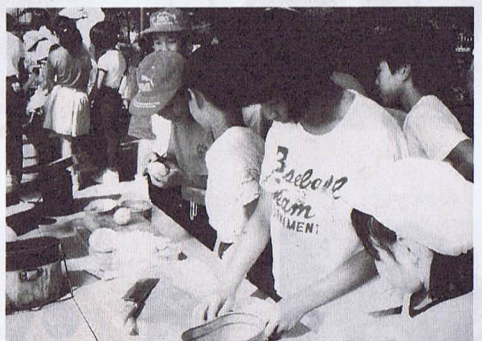
羽津山町 森 信次様
10万円
昨年12月、奥さんを亡くされた際、ご香典の一部を福祉活動に役立ててほしいとご寄付いただきました。

羽津山町 村瀬 重行様
図書 100冊
今年1月、児童・大人用の読みものをセンターの図書室へご寄贈いただきました。

城山町 森 まさ子様
50万円
今年2月、ご主人を亡くされた際、ご香典の一部を福祉活動に役立ててほしいとご寄付いただきました。なお故森国夫氏も、生前より福祉には大変ご理解を示されておられました。

四度目の校庭キヤン

別名六丁目 西條 摩樹



てちょっと考えてみると、あれしたらよかったとか、ちよっと余計なこと言ったなあ、とかいろいろ出てきます。もろあがらなかつたキヤンブファイヤー、小学校の子に「サポリーダー」と言われたこと、後悔することもたくさんあります。教える側ですごくむずかしいんだなあと思いましたが、とってもいい体験になったと思います。来年もつとサポリーダーになる子がふえるといいなあと思っていました。



「羽津野」を創刊!!

〈羽津野短歌会〉

小井 正 二

羽津野短歌会が発足して四年、短歌の初歩から手ほどきして下さった講師の小林英先生の熱意あふれるご指導によって、私たち会員は、ようやく短歌の道に目ざめさせていただきます。

俳句

〈志氏ヶ野句会より〉

村田 青麦選

慈雨至り虫の音つるる宮居かな

大宮町 山本 幸

養虫の未だみずみずし葉を養に

白須賀町 館 二三子

朝顔の刻々ひらく月明り

大宮町 武藤 弘子

小鳥来し色のり染めし式部の実

羽津町 藤井まき女

吹く風の身にしみそめし日暮かな

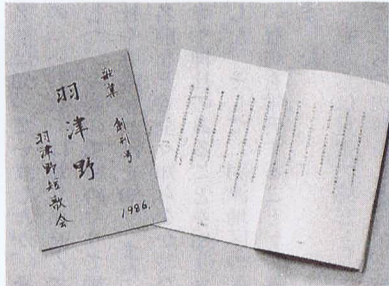
城山町 片岡とき代

毎月一回の学習会を繰り返してきました。

しかしながら、短歌の道は奥深く、容易にきわめがたいものがあり、いっこうに上達の気配が見られません。「忍ぶれど色に出にけり我が恋は……」と、この歌は、私の青年時代につとに愛したものです。

こうした境地をうたいあげた平安時代の歌人の真髄は、凡人の及びもつかないものです。そしてここに私たちのつたない学習の成果として歌集、

四年間の成果



「羽津野」をやつとまとめることができました。

これを機会に会員一同、なお、一層精進して日々の生活

泣く妻を看とる夫あり秋薔薇

羽津町 藤井まきへ

洗ひたる髪に夕べの穂田の風

羽津町 大森みつゑ

早稲の香を身にあび一ト日稗を抜く

八田町 久志本幹子

花びらの葉にくずれつつ牡丹散る

城山町 川本 ふみ

餌に郡れる鰻の渦を淋みぬ

城山町 安田 源吉

草の戸や白露みちし石の肌

城山町 宮田 健三

短歌

〈羽津野短歌会より〉

小林 英選

燈をかかげはるか彼方をみつめる自由の女神船中より見る

別名四丁目 青木 照子

城山に我が幼より親しめる松の木病みて切らねばならぬ

大宮町 小井 正二

誘い合ひ羽津の老人坂部の湯に汗をながして残暑たのしむ

大宮西町 井村左兵衛

うだるごとき暑さの中に取り入れの機械見に来しNHK取材班

いかるが町 伊藤 品子

診察室へ母入りゆきて椅子の上に寝かされし赤子にこやかに笑む

羽津町 梅本 きん

船釣りより帰りし父子声高に語り合ひつつ魚を料理す

大宮町 加藤 光子

中広きバラソル挿せるコンバイン日盛りの熟れ田動きて行けり

羽津山町 坂倉 俊枝

裏庭に杉葉のび立ちかたばみの小花ふえたり八月の照り

富士町 杉本 光子

六十歳にて社交ダンスを始めしと黄のセーターの背を見せて行く

富田浜町 早川 澄枝

三人の孫らが乗りしベーカーまた一人乗ると棚よりおろす

川原町 平子 季昭

片膝つき畔草を刈る我が肩に稲穂の触れてさわさわと鳴る

羽津町 広瀬 敦子

早魃に負けず育ちし綿の木白く吹く日は我は待つなり

羽津町 藤井まきへ

庭の木木にあした夕に水打でど雨の一滴に及ばざりけり

羽津町 前田素女子

馴らされてリズムに乗りてもぐる鶴の上げたる首の太くふくらむ

桑名市 村田 千代

冊子 羽津のむかし

第二集 人生儀礼と年中行事

昭和五十八年に増刷しました在庫が、センターに百部ほどありますので、ご希望の方は、一部六百円で出してはいかがでしょうか?

地区市民センター講座あれこれ

一味違った 写真が撮れた 入門教室

「ステキな街角で、ステキな野山で、ステキな写真を楽しんで撮ろう！」と初心者向けの「趣味の写真教室入門講座」を、昨年九月三十日より四回実施しました。

カメラの基礎知識から、うまく撮るためのワンポイント味のある写真の撮り方まで、市美術展審査員、時村茂雄先生の親切でいねいな指導のもと、二十八名の新人カメラマン(?????)はそれぞれ手持のカメラを手に、パチリ、パチリ……。



▲ さあ、こっち向いて！
——趣味の写真教室——

は、もことにほほえましい風景でした。

受講時間が午前九時三十分からとあって、受講生は男性四名女性二十四名となかなか華やかで、修了後は、ハスキーやローキーな写真の撮り方を、もつとく勉強したい。

そして、どんく撮影会にも出かけた……。できたら地区や、市の美術展にも参加したい……。という人たちが多く、有志のかたがたで羽津写真クラブが結成されました。

毎月第四水曜日の午前十時から、羽津地区市民センターのホールで例会がもたれています。

みなさんも、興味のある人はどしどし入会して、これらの生活を一段とうるおいのあるものにされるよう、おすすめします。

「羽津周辺の 史跡めぐり」 に参加して

堀 芽久美
富永 理津子
山本 直美

私たちは六年生になって日本の歴史を勉強しました。そこで「羽津の歴史」を知りたくて、羽津地区市民センター主催の「羽津周辺の史跡めぐり」に参加しました。昨年、八月一日暑い中、自転車に乗って、志氏神社・羽津城址・大膳寺社・川遥拝所社・光明寺などを見学しながら、地元のお年寄りにいろいろ説明してもらいました。

志氏神社や羽津城址などの名前は知っていましたが、その「いわれ」は知りませんでした。今回の史跡めぐりで神社や寺のいわれを知り、また、名前なども全々知らなかった寺や神社のあることを知りました。そして、羽津地区の長い歴史を学習することができました。

私たちは見学の感想として、これらの史跡をこわして、ビルなどを建ててはいけな

と思います。史跡はただそこにあるというだけでなく深い意味があるのです。そのために、私たちは、史跡を守り続けなければなりません。そしてこれからの人に史跡の深い意味と存在を伝えていかなければならないと思いました。



成果の上った 健康体操教室

「ステキな発見、健康体操を、サーーはじめましょう。」というキャッチフレーズで昨年九月より六回にわたり、米川郁子先生(生命の貯蓄体操普及会代表)を指導者に迎えた教室がスタートされました。

全身を動かして、いつでもどこでも、体力にあわせて、だれにでもできる、楽しくできる。そして心も体も健康になる体操とあって、受講定員三十名に対し申込者は殺到して、お断りするのに四苦八苦の盛況でした。

教室が始まるや、受講生は家でも朝・夕の髪や歯の手入れと同じように、毎日練習を続けるといった熱心さで、教室修了時には、みんな見事に体が柔らかくなった、ごはんもおいしく頂けるようになったという。



健康体操教室
▲ ああ、いい気持ち!!

また、ある受講生は、わが家の主人にも、習い覚えたこの健康体操の術を施して喜んでらつている。とのこと……。すべてが驚きのことばかりでした。



あ と が き

第14号をお届けします。何かお気づきの点がありましたら、当センターまでお聞かせ下さい。

編集メンバー

- ◇武藤 秀雄 ◇天野 平一
- ◇井上キヨ子 ◇高倉 芳子
- ◇後藤 佳子 ◇加藤 純子
- ◇田中 寿子 ◇中久木 喜久子
- ◇小井 幾世 ◇中谷 俊子
- ◇伊藤 一 ◇大和みさ
- ◇酒井マチ子 ◇奥村 光子
- ◇田中まさの ◇森 知子
- ◇羽津地区市民センター

羽津の人口 (昭和62年2月末現在)

男	6,801人	+ 80
女	6,714人	+ 22
合計	13,515人	+102
世帯数	4,250世帯	+152

前回は